

## 保育所等の定員・申込者の状況等の公表に関する知事コメント

令和5年4月1日時点の待機児童数（速報値）は241人（対前年：△70人）となり、令和元年度以降、5年連続で減少となりましたが、都市部では依然として待機児童が発生しています。

女性の社会進出による保育需要の増加や、コロナ禍での保育所の利用控えが解消したことが影響しているものと推察されます。

今後も、地域の保育事情を見極めつつ、早期の待機児童の解消に努めるとともに、人口減少地域における持続可能な保育の提供体制の構築のため、地域の子育て支援等を担う保育所等の多機能化に向けた検討を進めていきます。

保育人材や保育の質の確保も重要な課題です。保育士就職フェアの開催や、「保育士・保育所支援センター」を活用した再就職支援、処遇改善につながるキャリアアップ研修などに取り組んでいきます。

兵庫県では、妊娠・出産から子育て、教育、就労まで切れ目のない支援を展開することで、温かい社会の好循環を生み出していこうと取り組んでいます。

持続的な社会の原動力となるのは、未来を担う子どもたちにほかなりません。子どもたちが元気に育ち、それぞれの夢や目標に大きく羽ばたいていける、そんな可能性に満ちた兵庫を実現するため、全力を尽くしてまいります。

令和5年6月8日

兵庫県知事 齋藤元彦